

武庫川水系河川整備計画（原案）等に対する委員意見の整理表【質問】

項 目		委員からの意見（意見書）		委員名
主な内容	番号	質問		
①整備計画（原案）、総合治水推進計画（県原案）の位置づけに関すること				
河川整備計画の優先順位	1	整備計画の優先順位はつけないのか。第1位減災対策、第2位堤防強化としたい。		法西委員
②整備目標に関すること				
整備目標	2	過去の流域委員会で、県は「30年確率の洪水を防止することは下流住民の悲願であり、これを無視することは許されない」との意見であったが、原案では住民の悲願を無視したような内容しか見られない。県は説明責任をどのように果たすのか。		奥西委員
整備目標	3	県は、これまでの流域委員会において「治水計画は、まず治水安全度を設定して計画洪水ハイドログラフを求め、それを安全に流せるような対策を定めるもの」と説明してきているが、治水安全度や流量統計、ハイドログラフへの言及がない。説明するべき。		奥西委員
整備目標	4	一部区間では、「昭和62年から実施している河川改修事業の河道分担流量」という基本方針にも、整備計画にも位置づけられていない流量が参照されている。これと「戦後最大洪水 3510 を安全に流す」という目標との間の整合性は。		奥西委員
整備目標	5	「戦後最大の洪水と同規模の洪水」は治水安全度ならびに洪水の生起確率とどのように関連づけられるか。		奥西委員
整備目標	6	戦後最大洪水（昭和36年6月27日）のハイドログラフと主要地点の最高水位を示して欲しい。可能なら、不等流計算または等流計算による水位縦断図の形で示して欲しい。		奥西委員
整備目標	7	戦後最大を上回る流量または水位の記録があるか。		奥西委員
整備目標	8	猪名川の目標水準を戦後最大洪水としている理由。		奥西委員
整備目標	9	整備計画の目標流量を戦後最大の実績流量とする理由は何か。 （委員意見）目標流量は基本方針を長期目標として、20年の期間に可能な限り対策の積み上げ結果として（合意がとれる）値が決まるものである。はじめに3510トンがあるわけでない。3510トンに合わす必要もなく、それを上回る値が目標値になってもいいのである。		村岡委員
整備目標	10	仮に目標流量が3510トンと設定された場合、上流河川、支川の要所地点の目標値はどのようにして決まるのか。また、その対策方法は地元の要望や環境の視点からも対応せねばならないので、それも合わせて対応の仕方を述べてほしい。		村岡委員
整備目標	11	第3節整備目標（p37-38）での「当面」との記載が整備計画として適切かどうか。整備計画期間内にある「当面」の次は何なのか。進捗して目標や方向を失う計画では困るので「当面」の意味について、補足説明をお願いしたい。		中川委員
整備目標と事業費	12	全体の事業量バランス（例えば概算事業費）から、上流・支川でのこれだけの事業が20年間で優先的に必須なのか、十分理解できていない。整備流量として上下流バランスを確認した点は評価しているので、事業量としてどうか、補足説明をお願いしたい。また、整備流量としては以前説明があった上流整備規模や上流整備目標（第37回資料2-5）との関連がわかるように補足説明をお願いしたい。		中川委員

項目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
整備目標と整備期間	13	計画対象期間を概ね 20 年とすることと治水安全度の整合性はあるのか。	奥西委員	
整備目標と整備期間	14	第 55 回流域委員会では「整備計画で 30 年確率の洪水に対処することは下流住民の悲願であるとされたが」との質問に対して、「それは決して無視しない」との回答があったが、そうすると、整備計画案の言う 20 年の計画対象期間終了後の 10 年間で上記の悲願に答えるということか。	奥西委員	
整備期間	15	計画対象期間内の概略的なタイムスケジュールを示して欲しい（調査、計画、工事、評価などの各段階について）	奥西委員	
整備期間	16	概ね 20 年とする理由を示してほしい。 第 55 回流域委員会で必要事業費の説明があったが、財源の見通しを教えてください。	奥西委員	
整備期間	17	20 年がもつ意味について。「早期に整備効果を得るため、最短の 20 年に設定する」(P35)この意味は、20 年間で集中予算投下をして促進する、という意味なのか、それともこの事業量はどがあんばっても 20 年にかかる、という意味なのか。20 年間の意味合いが違ってくるので、補足説明をお願いしたい。示された概算事業費や過去の事業進捗状況（堤防強化）などから考えると、計画内容をすべて実施するだけで十分 20 年間は要するのではないかと思われることから、整備計画の見直しを最初から織り込む余地などなく、ともかく必死になって 20 年間これだけの事業必達に邁進するという意気込みでやって頂かねば達成できない計画だと感じる。書いたからには、しっかりやって頂きたい。	中川委員	
堤防強化	18	堤防強化の具体的目標は何か。精神的な目標に留まるのか。	奥西委員	
想定氾濫区域内資産（図 2.2.5）	19	図 2.2.5 に示されている資産は公的に保護されるべき資産か（ちなみに税金を使って保護されるべき私有財産とそうでない私有財産があるとすれば、両者の区別は何か）	奥西委員	
③流量配分等に関すること				
河道掘削	20	どのような河道を造ってゆくのか、特に安定河床縦断形をどのように設定しているのかが明らかでないので、河道掘削の長期的効果が理解できない。	奥西委員	
河道掘削	21	河道掘削を行う区間と行わない区間の境界で河床高にギャップを生じるように思われるが、洪水時に不安定な土砂移動や、極端な場合にはパイピング破壊が起こらないか。	奥西委員	
河道掘削	22	（現況河道は）河床が横断方向に傾斜しているが、水平な形に掘削しても河道は安定するのか。検討内容の概要も含めて教えて欲しい。	奥西委員	
河道掘削	23	掘削土砂の処分はどの様に考えているか。従来はどうであったか。	村岡委員	
河道掘削	24	洗掘・堆積実験の再現性に問題はないか。相似則の観点から見て今回の実験の水理量と土砂特性の関係で精度はどう決まるのか。また模型流砂と実際の土砂流土特性との関係はどうか。例えば深掘れが 7 m と予測されるときは 1/50 のモデルでの値は 14 cm であり、その縮尺比で洗掘深さを断定することはできるのか。	村岡委員	
河道掘削	25	・ 43 号線橋梁橋脚付近の深掘れの懸念から、河床掘削を 1 m と決める根拠の一つとなっているが、この深掘れを起こさないための対策は本当に容易でないのか。すなわち多少の経費	村岡委員	

項 目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			<p>がかかっても河床を安定させる工法は考えられないのか。もし、そういう工事が可能なら、掘削量を1m以上（例えば1.2m、1.5m程度）にすることもできると考えてよいか。（もちろん、これに伴う塩水遡上、流砂特性等新たな検討は必要である。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 低水路拡幅に支障があるという下水道管渠埋設箇所、埋設位置の（最低限必要な）移動はそんなに困難でないと思うが、移動を行うことは考えないのか。 	
河道計画（粗度係数）	26	原案では粗度係数を小さく保つためにどのような努力をすることとしているのか。また計画上の粗度係数をどのように設定しているのか。	奥西委員	
下流部築堤区間	27	天井川区間については何も課題が挙げられていないが、天井川の治水上の問題は無視して良いのか。	奥西委員	
下流部築堤区間（現況流下能力図（図2.2.4））	28	築堤区間について河道満杯まで水位がきた場合の現況流下能力が示されていない理由は。（掘り込み区間でも護岸の決壊や護岸背後の盛土地盤の陥没などがおこっており、河道満杯まで高水を流せるとは言い切れません。また築堤区間でも堤防が強化されれば、河道満杯まで水位がきても破堤しないとの想定が可能です）	奥西委員	
下流部築堤区間	29	平成16年に河川改修事業の目標流量2,600m ³ /sを超える2,900m ³ /sが発生したが、溢水も破堤も起こらなかったのはなぜか。	奥西委員	
下流部築堤区間	30	これらの地点における今後の2,900m ³ /s洪水時のリスクは何か。このリスクへの対応策は何か。	奥西委員	
下流部築堤区間	31	天井川区間について、その他の下流築堤区間とは異なる対策が必要ではないか。溢水を防げば水害は起こらないという机上論だけですべてOKか。	奥西委員	
下流部掘込区間	32	生瀬大橋上流について生瀬大橋下流と同程度の安全度を確保する必要があるとしているが、そこでいう同程度の安全度とは何で、具体的に流量としてはどの程度か。それと戦後最大洪水とは整合するのか。	奥西委員	
下流部掘込区間	33	「当面は」として戦後最大（2,700m ³ /s）よりも低い目標流量が設定されているが、当面の目標はいつまでにクリアするのか。また概ね20年以内に戦後最大をクリアする目途があるのか。	奥西委員	
下流部掘込区間	34	当面は1,900m ³ /sを安全に流下させることになっているが、当面とはどの程度の期間か。またその後整備計画期間（約20年後まで）に何をするのか。	奥西委員	
下流部掘込区間	35	情報提供依頼： 「防災ふれあい河川の整備」内容の紹介（すでに委員会既報告なら不要）	中川委員	
下流部	36	下流域の内水、高潮、くと予測される南海・東南海地震の備えの対策はどう考えているのか。また上流域の土砂災害対策は。	法西委員	
中流部	37	パラペット施行の目標流量を示して欲しい。	奥西委員	
中流部及び上流部	38	名塩川合流点より上流部の河道分担流量が示されていない。	奥西委員	
上流部	39	ここでは「当面は」と断らないで直下流の整備区間の流下能力を考慮し、戦後第2位の洪水を目標流量にしている理由は。	奥西委員	
上流部	40	平成8年の上流域の水害以降、河床掘削の掘り下げのボリュームについて、改修の確率を含めて地元ではどのようなやり取り、展開があったのか。	佐々木委員	
上流部及び支川	41	それぞれの目標流量とだけ書かれているが、数値を示して欲しい	奥西委員	

項 目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			い。図 4.1.6 との対応を明記して欲しい。	
上流部及び支川(表 3.3.2)	42		目標流量設定地点名を示して欲しい。	奥西委員
構造物（潮止堰）	43		潮止堰の撤去を実施する前に、現在の可動堰を全開し、①魚類をはじめとする生物の動向をみる、②バックウォーターエンド付近の流砂の状況や沿岸の植生の変化を観察する、③地下水位の変化を見る、などの調査を行い、実施工事や後の諸現象に係わる予測の参考とすることはできないか。	村岡委員
構造物（潮止堰）	44		潮止堰撤去および関連床止めの改築・撤去に伴う地下水への影響のシミュレーションに関して： (1) 現状の潮止堰の状態、利用井戸の深度、ストレーナの位置、観測井戸における潮汐振動に伴う地下水の水位、水質（塩分のほかに重要な水質項目があれば）を示す観測データを提示してほしい。（現状で潮汐の影響等がどこでどの程度あるかを知るため） (2) 現状、堰撤去の場合のシミュレーション対象としたメッシュ空間の底面を 15 m とした根拠、およびそれに関連する地層情報（柱状図等）の提示。（特に底面条件の適切性を検討するため） (3) 堰撤去時のシミュレーションは、河床の 1 m 掘削が完了した場合のものか。 (4) 計算モデルと用いた係数値の提示。地下水流計算は定常か、非定常か。（シミュレーションの適切性を判断するため） (5) 鳴尾浄水場の井戸の深度（主取水層）ならびに平常の揚水量は。	村岡委員
堤防強化	45		ここでは計画高水位以下の洪水に対する堤防強化しか書かれていない。計画洪水水位～満堤水位、および溢水時の破堤防止は超過洪水対策に属すると思うが、これについてはどこにも書かれていない。堤防強化技術の観点から、計画水位で線引きする理由があれば教えて欲しい。	奥西委員
堤防強化	46		堤防を強化して現況河道で 2,900 m ³ /s を流下させる（H16 年水害時には現況河道で流下させることができた）技術的可能性について説明して欲しい。	奥西委員
堤防強化	47		河道満杯まで水位がきた場合の現況流下能力がこの区間では示されていない。これは堤防強化の問題とも関連して重要なので、図示して欲しい。	奥西委員
堤防強化	48		堤防強化の技術的目標を示してく欲しい（例えば河川水位について、あるいは地震動について）。	奥西委員
堤防強化	49		「・・・護岸強化して、想定を超える水位上昇にも備える」の“想定を超える”とは、何を“想定していた”のか。	川谷委員
堤防強化	50		堤防の強化と称するのは、計画高水位以下の堤防の強化か。同水位以上の堤防余裕高についてはどんな強化をするのか。	村岡委員
堤防強化	51		今計画で想定している具体的な堤防強化方式の説明、および、超越水型堤防を採用しない（できない）理由について、補足説明をお願いしたい。	中川委員
青野ダムの活用	52		甲武橋流量に対する効果を明記してください。	奥西委員
青野ダムの活用	53		80 mm 以上 100 m ³ /s 以上というラインを基準に考えた場合、仮に前線などによりすでに飽和状態である青野ダム周辺に 140 mm の雨	佐々木委員

項 目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			が降ったらどのようなになるのか。また、台風前に前線などの降雨により青野ダムが満杯という状況はありうるのか。	
青野ダムの活用	54	青野ダム操作規則第3条から出された下流域の安全が確保できる流量を100 m ³ /s以上としているが、下流域の安全の確保とはどのような条件か。	佐々木委員	
青野ダムの活用	55	（内陸部に発生しがちな突発的な局地豪雨を想定） 武庫川本川が平常流量である場合、単位時間当たり何m ³ /sまで安全に放流できるのか。	佐々木委員	
青野ダムの活用	56	（台風や梅雨前線などによる雨雲刺激による豪雨の想定） 青野ダム集水域周辺が事前に前線などにより既に飽和状態であり、武庫川本川も増水状態（例えば平均的な台風で想定）にある場合、単位時間当たり何m ³ /sまで安全に放流できるのか。また、満杯である可能性がある場合、放流に要する時間と放流口の大きさに問題はないのか。	佐々木委員	
青野ダムの活用	57	最悪の条件下で時間雨量140mmの雨が2時間降り続いた場合、別途予備放流口などの必要はないのか。	佐々木委員	
既存ダムの活用	58	青野ダムや千苺ダムで予備放流を行う場合、事後に生じる可能性のある渇水リスクに対する対応は、給水システムに関する水融通施設の推進であることは記述されている。水融通だけでなく、新たな水道水源の開発は考えないのか。	村岡委員	
継続検討（既存ダム）	59	千苺ダムの治水活用を当初は盛りこまない理由に、水道事業者との協議に多大の時間を要するとあるが、その主たる理由は将来の渇水リスクに対応するためということであるが、これは水道事業者や河川管理者の体制が現行の制度下で、水道事業者だけが主張していることか。河川管理者は渇水リスク対応を保持しながら千苺ダムの利活用を進める検討をしていないのか。	村岡委員	
継続検討（既存ダム・新規ダム）	60	①検討継続の内容はどのような内容か。また外部への検討内容および結果の報告等はどのようにするのか。 ②調査・予算措置はどのようにするのでしょうか。 ③具体的な方向性が定まった場合には、計画上の取り扱いについてどのようなプロセスで検討するのか。例えば「新たに流域委員会を設置して協議検討する」など明記すべき。 その場合、「河川整備計画のフォローアップ委員会（仮称）」を設けて、施策の実施状況等について意見を聴く。」との関係やそれぞれの位置づけはどのようなようになるのか。	田村委員	
継続検討（新規ダム）	61	「ダム選択への社会的な合意形成にそれぞれ多大な時間を要する」とあるが、その主な理由を示して欲しい。また「環境保全に配慮したとしても」との前提条件をつける理由は。	奥西委員	
継続検討（新規ダム）	62	戦略的環境アセスメントは実施要領が決まっていないので、今は実施できないとしながら、新規ダムを整備計画に盛り込むための地ならしとして、環境影響調査を実施してきた経過がある。このような環境影響調査を総括することなく、「環境保全に配慮してもなお」とあいまいなことを記述するのは、県民の税金を預かる者として無責任ではないのか。 社会的合意に時間がかかるとしているが、社会的合意に向けてこれまでどんな努力をしてきたのか。流域委員会での審議をどのようにみるか。これからどのような努力をしていくのか。	奥西委員	
継続検討（新規ダム）	63	新規ダムを整備計画に盛りこまない理由に、環境に配慮できたとしても社会的合意形成に時間がかかるということで、ここでいう	村岡委員	

項目 主な内容	委員からの意見（意見書）		
	番号	質問	委員名
		社会的合意とはどういう事項をいうのか。また、それに時間がかかる理由は何か。	
遊水地	64	新規遊水池の甲武橋流量に対する効果について	奥西委員
遊水地	65	農地の流水地としての利用についての方針	奥西委員
遊水地	66	遊水地対策について、公有地だけでなく民有地の構想もあって然るべきである。その実現に関してどのような障害があって、どう解決すべきかの記述がほしい。	村岡委員
流域対策（流量）	67	30 m ³ /s は見込み量だと考えられるが、目標として 30 m ³ /s 以上と表現しない理由は何か。	奥西委員
流域対策（学校・公園）	68	今後の課題は。	奥西委員
流域対策（防災調整池の設置指導）	69	現行の技術基準は 30 年確率の降雨を対象にしているが、原案の戦後最大洪水との整合性を考えた場合、現行基準を変える必要があるのではないか。	奥西委員
流域対策（大規模開発に対する防災調整池）	70	例) 第 2 名神工事による森林破壊、トンネルズリ置場河川部局との事前協議ができてきているのか。防災調整池の設置など。	伊藤委員
流域対策（水田）	71	水田貯留について、実施に向けたこれまでの検討を無視するような表現になっている理由は何か。	奥西委員
流域対策（森林・水田）	72	流域対策のうち、森林、水田、遊水池の対策があまりにも消極的である。流域の中で、森林、水田は最も大きな面積率を持つので、例えば森林において「森林管理 100%」「里山林の再生」「森林ボランティア育成 1 万人作戦」「災害に強い森づくり」といった概念的用語だけで対応しようとするのは大変不満である。水田に関してもモデル事業だけで整備期間 20 年を当てようとするようにとれ、結果として森林、水田に関して効果が上がる対策がない。これでよいのか。	村岡委員
流域対策（森林）	73	森林対策では、確かに数値を上げて整備目標にするのは難しい。しかし、森林に関する種々の推進施策の中で、年次的にそれぞれの対策がどの程度成果があげられたか（いくら費用をつぎ込むか、ではなく、何 ha の森林がどういう状態に改善された、あるいは創生されたか）ということに関する実績データの積み上げから、全体として、現状の森林流域からの流出率がどの程度改善されたかというようなアプローチは可能ではないか。「白書」的記述ではなく、治水事業における流域対策としての成果を示すべきではないか。	村岡委員
流域対策（森林）	74	森林の保全策について、具体の計画或いは期待する数値はあるか。	加藤委員
④減災対策に関すること			
危機管理	75	ハザードとリスクの区別について、河川管理者の認識は。	奥西委員
危機管理	76	再度災害防止の観点から、少なくとも計画期間内に、整備計画完成時にでも相対的に脆弱な箇所（区間）をどのように認識し、それらでの減災対策等の充足度をどのように確認しているか、補足説明をお願いしたい。	中川委員
危機管理（水害リスクに対する認識の向	77	今後の具体的な課題は。	奥西委員

項 目 主な内容	委員からの意見（意見書）		
	番号	質問	委員名
上)			
危機管理	78	情報提供依頼： 県民モニターアンケート結果(P21)の紹介（web 公開済みならURL紹介）	中川委員
ハザードマップ	79	本整備計画にもとづく河川整備をおこなっても、武庫川流域の水害ハザードが基本的に変わらないとすれば、多額の税金をこれに投入する必然性が疑われることになる。整備計画の効果予測の一例として、ハザードマップがどのように変化するか予想を示すことが望まれる。もし、ハザードが変化しないのであれば、リスクがどれだけ変化するのか。	奥西委員
佐用での事例	80	佐用川の洪水について、「過去に経験のない」とされているが、「過去」とは具体的にどれだけの期間か。確率論的にはどのような位置づけか。	奥西委員
水防活動	81	現行の水防体制について、次の3つに分けて具体的に説明してほしい。 ・河川整備レベル以下での水防活動 ・河川整備レベル程度の洪水の時の水防活動 ・河川整備レベルを超える超過洪水時の水防活動	奥西委員
情報提供	82	県から市へ提供している防災情報等の各市での活用の状況は。	奥西委員
情報提供	83	インターネットで配信されている県の情報は、無降雨時にはアクセスが用意であるが、大雨時にはアクセスが多くなり、情報が表示されるまでに極めて長時間（1時間以上）を要することが少なくない。この状況は改善する必要があるが。	奥西委員
土地利用の規制誘導	84	適切な土地利用を行うための活動や規制・誘導についての具体的な記載	奥西委員
⑤環境対策に関すること			
魚類（アユ等）	85	ウナギやアユの減少に対して、潮止め堰や床固工の設置は無関係であったと言えるのか。	奥西委員
魚類（アユ）	86	アユの生育のために望ましい藻類（珪藻、緑藻など）の生育条件の整備についてどう考えるのか。	奥西委員
森林の保全と公益的機能の向上	87	森林の面積率を考慮した流域全体としての森林の利水機能の保全策を明示してほしい。	奥西委員
森林の保水・貯留機能の保全	88	開発による森林の土地利用の変更を許容できる限界を明示してほしい。	奥西委員
県民緑税による森林保全	89	緑税について 税収と今までに執行された事業費について知りたい。武庫川下流人口は約100万と言われている。兵庫県民の1/5にあたる。流域の「治水」のための「森林保全」にはどれだけ使われたか。	谷田委員
正常流量	90	流水の正常な機能の維持に必要な流量を明示してほしい。	奥西委員
正常流量	91	正常流量は生瀬橋を基準にして約1.5トンと設定されている。この値は従前の考え方に従うものである。しかし、そのうち約0.8トンが上流浄化センターの処理排水（平成19年実績）である。下水処理水は流量が安定しているというメリットはあるものの、冬季には高温排水になること、微量化学物質や医薬品残留物の含有の心配があること、浄化センターより上流は一段と流量不足になるため、区間での流量が正常と言えるかどうか、どう判断すればよいか。また、この水量が基準点の下流区間で過去の流量	村岡委員

項 目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			特性からどの程度の頻度で濁水流量になるかを示し、特に生物の生息への影響、水質の正常さに関して問題がないかどうか示してほしい。（要望としては、上流ダム群からの放流確保ができないか、再検討してほしい。）	
正常流量	92	<ul style="list-style-type: none"> 正常流量の設定は約1.5トン。平成5～116（12年間）の濁水流量の最小値が1.43トンとなっている。しかし、この12年間で最小流量が1.5トンを割った年は少なくとも6年ある。この最小流量が生じた年で、1.5トンを割った流量が続いた日数は各何日あったか。また、この事態をどう見るか。これでも1.5トンが正常流量と言えるか。（参考：平成19年度第2回兵庫県河川審議会、資料1-5） 正常流量を評価する基準地点は生瀬橋1地点である。全区間では15箇所あるということであるが、各地点（少なくとも数カ所）で正常流量を設定し、監視することが必要ではないか。なぜなら、生瀬橋より下流において、流量がしばしば危機的な状態になることが市民レベルで報じられることが多く、生物生息のための危機管理が必要と考えるからである。 「①正常流量」と「②維持流量」との関連が現状では判りにくい。「③濁水時利水必要流量」とでもいうべき流量を定義し、②と③の大きい方を①とする、ということ間違いはないか。この③は、現状では水利権水量が当てられているとみて良いか。利水実態を考える必要はないか。 維持流量の設定で、「動植物の生息地又は生育地の状況」の検討から設定された流量があまりにも少ないように感じられる。これが正当な生物学的見知であるという証明資料を提示し、説明願いたい。また水温障害についての考えを聞きたい。一方、「流水の清潔の保持」の見知からはどうか。 	村岡委員	
水循環	93	現況で水循環の健全性は確保されていると評価するのか。そうでないならば、課題は何か。	奥西委員	
水循環	94	健全な水循環の確保のために必要な場合は、水利権を制限することを明記する必要はないか。	奥西委員	
植生	95	高水敷および堤防上の植生管理の現状と課題はどうか。鳥類の生活環境としての高水敷および堤防上の植生に関する課題について説明してほしい。	奥西委員	
環境2つの原則	96	「2つの原則」だけを引用し、見出しにある再生について言及していない理由は何か。	奥西委員	
環境2つの原則	97	「2つの原則」を堅守する旨の記述がない（適用して保全・再生を図るという記述はあるが、再生のための手段の記述はない）のはなぜか。また、過去の河川改修によって失われた生態系を再生する旨の記述がないのはなぜか。	奥西委員	
環境2つの原則	98	名塩川合流点～岩鼻橋の区間についての記述がないのはなぜか。岩鼻橋と山崎橋の位置がわからない。	奥西委員	
環境2つの原則	99	武庫川上流部について、環境2原則適用時の影響評価が部分的に甘い印象がある。必要に応じて検討委員会の専門家からの評価やコメントを含めて補足説明をお願いしたい。	中川委員	
環境2つの原則	100	環境2つの原則の関連 キーワード： <u>生物多様性の保護・保全</u> 、 <u>地域の生態系の保全</u> 、 <u>多自然工法</u> 、を文書として記入できないのか。	法西委員	

項目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
良好な景観の保全・創出	101	精神的な目標だけを記載し、景観破壊行為の禁止、改善（創出）すべき景観について記載していない理由は何か。	奥西委員	
良好な景観の保全・創出	102	治水のために人工的に管理されている高水敷や堤防上では、樹木の生育条件が自然状態と異なっており、洪水調節による人為的な流況変化の影響もある。このような環境下で樹木を正常な状態に保つためには適切な樹木更新を図る必要があると言われてしている。これについても、言及が必要ではないか。	奥西委員	
良好な景観の保全・創出	103	情報提供依頼： 丹波地域の地域景観マスタープラン概要の紹介（すでに委員会既報告なら不要）	中川委員	
水質	104	目標水質を明記していない理由は何か。（法的な水質基準か、武庫川らしさを保つための水質基準か）	奥西委員	
水質	105	どういう水質・底質をめざすかという水質目標を明らかにした上で、水質・底質調査の具体的方法を定める必要があるのではないか。	奥西委員	
水質	106	下水道の普及率は99%と高いが、現実に夏場の平水・低水流量時水質は良くない。また、灌漑期の農業用水の排水は期間が限られているとは言え、水質的に好ましい状況ではない。こういった点に関して、わずか3地点の環境基準点で環境基準値を満足しているということだけで問題なしとすることで良いか。県、地方自治体の観測点を合わせると、武庫川流域で30数点の観測点がある。これを水質監視に活用しないのか。	村岡委員	
水質	107	油等の流出事故に対して流域7市の水道事業者の連絡会議で検討することは問題ないが、水道関係以外の部局ではどこが扱うのか。また分かり易い水質指標についてはどこが扱うのか。住民との連携はどうするのか。	村岡委員	
流水利用の適正化	108	「利水者の理解と協力」という一面だけを記述するのは不適切ではないか。河川管理者も利水者の努力を理解し協力するという記述もあって初めて、真の理解と協力が実現するのではないか。	奥西委員	
適正な水利用	109	渇水リスクが増しているという事実あれば説明してほしい。	奥西委員	
適正な水利用	110	武庫川水系での水道・工業用水の最近10年間の A. 取水量実績、 B. 水利権水量 を各市水道事業ごとに示し、A,B の差違についての見解を述べてほしい。	村岡委員	
河川利用	111	河川利用について、武田尾峡谷は <u>自然公園</u> として残すことは検討しないのか。	法西委員	
⑥推進体制に関すること				
推進体制	112	推進体制（案）では、河川対策、流域対策、減災対策だけが強調されているようである。利水対策、環境対策、まちづくり対策についても推進体制に入れるべきではないか。	村岡委員	
推進体制	113	整備計画に従って事業設計があり事業施工が始まるに過程において、いわゆる計画アセス、事業アセスに相当するアセスメントは、どうするのか。推進体制あるいはフォローアップとどう係わるのか。	村岡委員	
推進体制	114	今後の組織体制のあり方に関し、千苺ダムの利活用に照らして意見を述べる。これまで多くの委員が千苺ダムの一部治水活用につき論議を尽くしてきたが、結局は水道事業者との協議が進まないということであった。そもそも、総合治水として利水の事業も合わせて検討する、というのが河川法の趣旨であるが、水道事業と	村岡委員	

項 目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			の検討が進まないということが主な理由であれば、その体制を見直すということをまず重要な点として先に進める必要がある。河川管理者はそれを推進するというで理解したい。	
推進体制		115	多くの点で現在の河川管理者を含む関係行政体制がたて割りであることによる障害で早期に解決できない事項があるようである。組織体制の見直しや改善について、整備計画の事項や課題ごとに整理しておく必要はないか。	村岡委員
フォローアップ組織		116	役割として「施策の実施状況等について意見を聴く」となっているが、「意見」は、その後の計画実施にどのように反映されるのか。	川谷委員
フォローアップ組織		117	フォローアップ委員会の権限（守備範囲と重み）はどのようなものか。	川谷委員
フォローアップ組織		118	「意見」を求めるにあたって、実施に要した費用、次期以降の予算見積、予定どおりに行かなかったことの技術的課題、その対応策等々の情報が示されるのか。	川谷委員
フォローアップ組織		119	（「意見」を求めるにあたって必要となる）情報は、きわめて多岐にわたる内容となると思われるが、これに基づいて、例えば点検・評価をするのが委員会の役割とすれば、委員構成はどのような考え方で行われるのか。	川谷委員
フォローアップ組織		120	基本方針を長期目標とする整備計画の位置づけはあるが、基本方針の本整備計画の進捗過程あるいは終了後の扱いはどうなるのか。既に行った基本計画の考え方は、水文学、水文統計学、推計学等の考え方を参考にまとめられたが、その予測の検証は関連の観測資料があつてこそ成り立つものである。その意味でモニタリングは重要であり、今後20年規模の資料が蓄積されると、一層予測の精度が上がるものと見られる。従って基本方針の扱いは当然フォローアップ委員会の最重要検討項目となるから、早期の確認が必要である。	村岡委員
フォローアップ組織		121	流域委員会もしくはフォローアップ委員会のような、現流域委員会に関わる機関が総合治水推進計画の推進にどのように介入していけるのか。	佐々木委員
フォローアップ組織		122	フォローアップ組織に関連 フォローアップの仕組について、わかりやすく、詳細に説明してほしい。	法西委員
流域連携		123	上記に関連して、武庫川づくりと流域連携を進める会（略称 武庫川流会）主催の「天然アユが遡上する武庫川づくりフォーラム」が2月20日宝塚市で盛大に行われた（神戸新聞2/21）。これをどう考えるか。住民が連携して武庫川を考える武庫川学会（仮）があつてもいいと思うが。	法西委員
⑦その他				
砂防事業の沿革		124	「このような整備により、昭和13年の阪神大水害においても・・・大きな被害を受けなかった」について、大きな被害を受けた（表六甲地区では整備が不十分、あるいは不適切だったのか。あるいは、別の所に原因があつたのか。	奥西委員
津波対策		125	津波対策についてはどのように考えているのか。	奥西委員
河川対策位置図		126	44頁の図4.1.6と50頁の図4.1.21の整備区間を示した2つの図の関係はどうなっているか。どちらかの図にまとめられないか。	長峯委員
事業費		127	武庫川流域におけるここ3年間の事業費はどの程度か。	加藤委員

項目 主な内容	委員からの意見（意見書）		
	番号	質問	委員名
事業費	128	概算事業費 420 億円は、20 年間でどの程度進捗できると考えているか。	加藤委員
事業費	129	河道対策の中上流・支川部の事業費が約 70 億円となっているが、上流部だけの事業費（みお筋・瀬・淵等の再生を含む）はいくらか。	土谷委員
維持管理	130	「限られた財政の中で」という記述があるが、河川の維持管理の予算が特に限られているという事情があるか。	奥西委員
維持管理	131	31 頁 12 行目：「武庫川流域河川維持管理計画を策定して」とあるが、この計画の中身を教えて欲しい。	長峯委員
維持管理	132	情報提供依頼： 武庫川流域河川維持管理計画内容の紹介（提言で求めた計画なので少し丁寧に説明頂きたい）	中川委員
モニタリング	133	モニタリング地点の位置，モニタリング項目，モニタリングデータの活用状況を示して欲しい。	奥西委員
モニタリング	134	武庫川流域の降雨－流出応答を正しく定式化するため，また土地利用の変化や森林施業が流出特性に及ぼす変化を武庫川流域について定量的に明らかにすることは必要ではないか。	奥西委員
モニタリング	135	今まで流量データがないために基本高水を流量から検証できなかったので整備計画の期間に流量観測をするということであるが、何年度からどのような方法で観測するのか。	土谷委員
排水ポンプの運転調整	136	中継ポンプ場の排水ポンプとはどういうものか。現行のポンプ停止基準は原案の目標安全率と整合しているか。	奥西委員
砂浜の再生	137	武庫川の河口に干潟を再生する計画ですが、兵庫県の海岸には砂浜を再生した方が良い場所がありますか。	土谷委員
上流武庫川の浸水箇所	138	武庫川上流（岩鼻橋から山崎橋）の区間で最も浸水被害の大きかった時の浸水箇所を地図上に示して欲しい。（水田、空き地、家屋の場所がわかるように）	土谷委員
上流武庫川の空き地等	139	山崎橋より上流に空き地や放棄田があれば地図上に示して欲しい。	土谷委員
文書の構成及び内容	140	1 頁 15 行目 「・・・以下の考え方に基づき・・・」とあるが、「以下の」がどの部分を指すのか不明確である。	長峯委員
文書の構成及び内容	141	文中に地域温暖化による集中豪雨があったり、また、最近の小雨化傾向とあるが、少し気になっている。修正できないか。	法西委員